

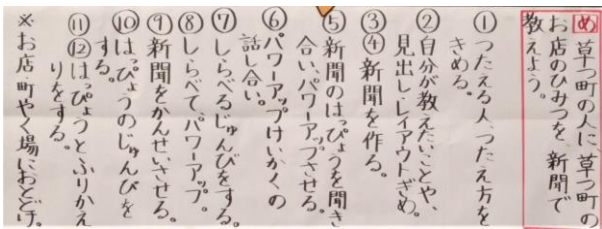


### (3) 活動の様子 (全12時間予定)

#### ア「であう」(第1時)

今まで行ってきた町探検について、地図を見ながら振り返り、誰かに草津町の商店等のよさを伝えたいとの思いをもった。1回目の町探検では、自分たちが使っている教育施設について調べ、保護者にその報告をした。2回目は公共施設に行き、使用する際のルールや施設について知らなかったことを施設の利用者に伝えた。子どもたちは、「最初がお家の人で、次はそこ(施設)に来た人に伝えたいから、今度はもっとたくさんの人に伝えたい」と考えた。その手段として、「草津町の人に向けて、草津町のお店のよさを伝える新聞作りをしよう」という課題を設定した。

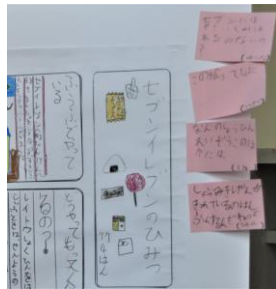
#### 【学習計画】



#### イ「はたらきかける」(第2～9時)

第2～4時、伝えたいことを班で話し合いながら決め、新聞作りを行った。

第5時、子どもたちが作った新聞をお互いに発表し合い、新聞をよりよいものにするための話し合い活動を行った。話し手と聞き手に分かれ、聞き手は、草津町の人立場に立って、教えてほしいことを考え、「教えて!カード」に書き込んだ。寄せられた「教えて!カード」を、すぐに答えられるものと、すぐには答えがわからないものに分類し、どのようにすれば新聞がよりよいものになるのかを話し合った。その後、全体で話し合ったことを確認し、本時のまとめを行った。



【教えて!カード】

第6～9時、「教えて!カード」に書かれたことや町探検で今までの資料を見直したり、お店の人に電話でインタビューしたりして新聞を完成させた。そのことにより、伝える内容が明確化された。



【修正された新聞】

### ウ「ふりかえる」(第10～12時)

#### 【発表風景】

第10時、改良した新聞を発表する練習として、子どもたち同士で発表を合わせた。第11・12時には、保護者や地域の人に発表するという予定であったが、感染拡大に伴い、招待して発表することはできなかった。



#### (4) 考察 成果(○)と課題(●)

- 子どもたちから多くの質問を引き出すための付箋の活用が有効であった。
- 質問に対し、どのような方法で解決するかを話し合うために、付箋を分類する活動が効果的であった。
- 気づきの質を高めるために、質問した意図や分類した理由を問い、全体で共有することが有効であった。
- 相手意識を明確にするために、「身近な人」を対象とした方がよい。
- 練り合いの時間を確保するために、発表や練り合いの時間を2時間かけることも検討していく。
- すぐには答えられない質問を解決するとき、電話以外の意見を出すために、電話や訪問のよさを学習させておくとうい。

### 4. 研究の成果と課題

(1) 成果 学年や教科間のつながりを重視した指導計画は、学習のねらいが明確となり、児童自ら課題を見付け、主体的に追究する学習につながった。まとめや振り返りでは「～してみたい」「～するともっとよくなる」などの児童の積極的な思いが随所に表れていた。更には、友達や教師、地域の方との関わりから、協働的な学びへ広められる可能性も大いに感じられた。

(2) 課題 やはり授業実践と検証の不足があげられる。今後、一層の実践を重ね、指導計画や単元計画の加筆・修正、他教科等との関連や学びの連続性を捉えた学習活動を確認していくことが必要である。また、他学年だけでなく、こども園や中学校との系統性を見直し充実させていくことで、将来と生涯にわたる学びの連続性を高めていくことが大切である。

最後に、「草津よいとこ学習」を通して、郷土である草津町のことを主体的に学び、草津温泉の貴重性や課題を知り、郷土を守り発展させていこうとする意欲を大いに高めることができたと感じている。